



ふれあいの橋の会

REPORT なんぶ

と き 2026年4月23日(木) 14:00~15:30

見学先 デイサービスセンターいしい、共生ホームなるみ 米子市石井 687-2

出席者 【委員】 生田 仁史、鶴亀 寿子、岸本 保子、高柴 サツコ、田子とし子

【なんぶ 幸朋苑】 中村 泰文 (なんぶエリア 総合施設長)

吉岡 彰子 (デイサービスセンターいしい管理者・主任)

【法人本部】 荒井 祐二 (監事)



NANBU Area Report

開会(荒井)： 本日は、2015年5月に開設した認知症対応型の「デイサービスセンターいしい」と「共生ホームなるみ」を見学していただきます。こうほうえんは、2000年4月の介護保険制度の施行開始に合わせ「ふれあいの橋の会」を発足し、以来、多くの皆さんにご協力をいただいています。なんぶエリアでは、今月から委員として生田仁史さんに参加いただくことになりました。自己紹介をお願いします。

生田委員：五千石地区の民生児童委員を9年間担当していました。現在は、読み聞かせのボランティアなどを行っています。祖父、父母もなんぶ幸朋苑でお世話をいただきました。福祉分野については、以前から関心がありますので、勉強をさせていただきたいと思います。

※出席者・・・自己紹介

①



■なんぶエリアの現況

中村総合：前任委員の仲田知人さんには、長年大変お世話になりました。今月から新たに生田仁史さんが参加されることになり、嬉しく思っています。なんぶ幸朋苑は、本年8月で30周年を迎えます。9月19日（土）に記念事業を開催したいと準備を進めています。フィリピンやインドネシアから特定技能実習生として勤務されている皆さんに協力いただき、自慢料理を屋台形式で提供する方法を考えています。その他、法人が取り組んでいる「ユマニチュード」の紹介など、豊富な内容になるよう検討中です。今後、40年、50年、と地域の皆様に親しんでいただけるよう職員一同努めてまいりたいと思っています。

■施設概要と課題

吉岡主任：「デイサービスセンターいしい」の運営状況を報告します。現在の登録者は30名（男性4名、女性26名）、一日の定員は12名です。職員は管理者1名、介護士6名、作業療法士1名。年間の活動は、4月 桜ドライブ、5月 鯉のぼり作り、6月 ちまき作り、サツマイモ苗植え、七夕飾り作り、水防訓練、9月 おはぎ作り、10月 ミニ運動会、11月 紅葉ドライブ、12月 クリスマス会・・・と四季折々の行事を実施しています。

地域との交流は、共生ホームなるみを利用した支え合いカフェ、いしい交流広場での催しなど、子どもからお年寄りまで地域の皆さんとの交流事業を開催しています。ボランティアでの尺八・ハーモニカ演奏など、多くの皆さんに協力をいただいています。

毎回、ご利用者の状況を「表情スケール」で記録を残して一日を振り返り、次回のケアに生かすようにしています。

②



■施設内外の点検・提言

荒井監事：施設内を見学していただきました。配布しました評価表（①建物、施設内、周辺 ②職員の態度、接遇 ③ご利用者へのサービス ④地域交流）のチェック項目を照合し、気づいた点を指摘してください。

生田委員：私は、初めての訪問ですが、**民家改修型の施設**で、とても家庭的な雰囲気が伝わり良かったと思います。どういう経緯で開設されましたか。

中村総合：なんぶ幸朋苑を利用されていた地域の方から土地建物を寄贈いただき、活用させていただいています。築50年は経過していると思います。

生田委員：敷居などもそのまま段差がありますが、**バリアフリーの改修**は必要ないですか。

吉岡主任：ご利用者は、自宅に帰れば段差のある生活が待っています。リハビリの専門職員にも相談し、危険な箇所は段差解消を施しています。

岸本委員：今日は、タオルとボールで飛距離を競うゲームをされていましたが、とても盛り上がりっており感心しました。

鶴亀委員：男性も参加されていましたが、誰もが一生懸命で楽しそうでした。

岸本委員：一日の定員が12名までで、自宅と同じ民家の雰囲気に包まれているのがいいのでしょうか。

鶴亀委員：レクリエーションは、**毎日変えて実施**されているのでしょうか。

吉岡主任：午前は脳活性レクをし、午後は今日のように競争心が出るようなゲームを用意していますので大変盛り上がります。気温はそれほど高くないですが、**適切な水分補給が必要**だと考えています。**ゲームの合間を見て水分補給の休憩**をします。多い人で週4回の利用となっていますが、**ゲームの内容は職員が工夫**しています。また、香りでの効果が期待される**アロマセラピー**も活用しています。

高柴委員：香りでの効果というのは、ということですか。

吉岡主任：鳥取大学医学部の浦上教授が考案されたアロマセラピーです。認知症の研究を進める中で、アロマオイルの香りが嗅神経の活性化に効果があることが分かり、ローズマリーやレモンなどの香りが利用されています。

③



岸本委員：皆さんが親しく会話をされていましたが、顔見知りの人が集まっているように感じました。

吉岡主任：ここを利用してから親しくなっています。今話したことはすぐに忘れるようですが、休んでいる人があると気になるようです。

高柴委員：参加者同士で名前を呼び合っていましたから、名前は記憶にあるようです。ゲームの中で点数を合計する場面がありましたが、計算もきちんとされていました。

生田委員：認知症状のある人が利用されているはずですが、皆さんの会話や行動を見ていると、普通に元気な人というイメージでした。

鶴亀委員：利用される中で、症状が改善されているのでしょうか。

高柴委員：利用を始める場合、当初は戸惑い、行きたくないと言われる人がいると思いますがどうですか。

吉岡主任：中にはそういうケースもあります。ここまで来て皆さんと交流すると楽しくなるようですが、慣れるまでに多少時間が必要です。

中村総合：脳活性レクなど、独自の取り組みをされており、効果が出ていると思います。職員は大変だと思いますが、引き続きよろしくお願ひします。

今回は、**5月28日(木) 14:00～ エンジョイりんRIN、尚徳地域包括支援センター、みんなの居場所あいRIN、デイハウスながえ** です。

④

